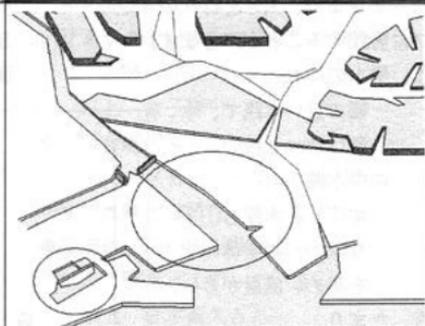
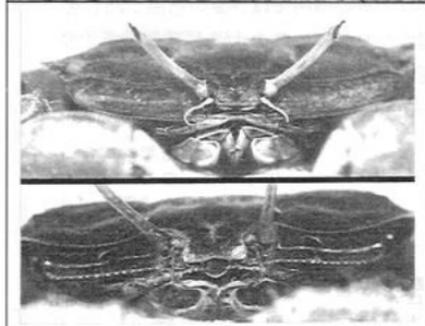


市川自然博物館

10-11月号 (通巻88号) だより



自然博物館のめ



ヤマトオサガニ

左上：干潟のカニとしては大きく目立つ。

左下：よく似たオサガニ(下)には額に突出部がある。

右上：泥の干潟を好む。

右下：江戸川放水路と行徳近郊緑地に生息。

今年度の特集は、長田谷津総合調査の内容を紹介してゆきます。

第Ⅳ回は『長田谷津の水生物』についてです。

長田谷津 総合調査報告

Ⅳ 長田谷津の水生生物

汚れた大柏川が途中にあるため、長田谷津は江戸川や東京湾とは生物のつながりがありません。長田谷津の水辺は「孤島」のような存在です。しかし、閉ざされた環境とはいっても変化がないわけではなく、特に水のあり様の移り変わりによって、繁栄する種類がいたり、逆に衰退する種類がいたりします。

●水のあり様の3タイプ

長田谷津の水源には湧水と、くみ上げの井戸水とがあります。井戸は最奥部の池に放流されているので、その池をのぞくと、大半の水辺は湧水によって環境が成り立っています。長田谷津の湧水は、窒素系の汚れが目立つものの生活排水の混入などはなく、きれいな水を好むとされるオニヤンマのやごやサワガニが生息できるほどには良好です。

しかし、同じ湧水による水辺でも形態はさまざまで、大きくは次の3つのタイプに分類することができます。

①. 湧水の流れ

幅の狭い水路で、水深は数cmと浅い。

②. 中央水路

幅広く、水深も①より深い。谷全体の水を集め、流量が多い。

③. たまり

谷底を軽く掘り上げた浅い水辺で、おもに①の水が滞留する。

これら3タイプの水辺は、水面の広がりや植物の繁茂の状態など多くの面で異なっていますが、年間の水温変動の点でも大きな違いがあります(図1)。

「湧水の流れ」は、年間の水温変動幅が6℃程度で、夏でも20℃に達することではなく、冬でも10℃を下回りません。

一方「たまり」は、その大きさや湧水の流入量によって水温変動の形は多様で、湧水が多ければ、水温の変動も「湧水の流れ」と同様のパターンになりますが、そうでない場所では、夏の水温が35℃を超えたり、逆に冬の水温が下がって、水面に氷が張るような場所もあります。

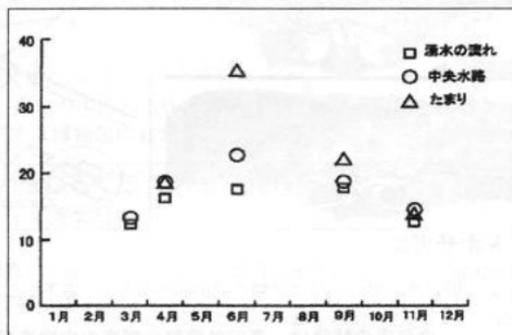


図1 長田谷津の地点別水温(2001年)

●湧水の流れを好むオニヤンマ

カワニナ、サワガニ、オニヤンマ（やご）、スナヤツメなどは、長田谷津の中でもおもに「湧水の流れ」を中心に生息します。オニヤンマなどは「湧水の流れ」から続く中央水路でも見ることが出来ます。これらの種類が「湧水の流れ」を好むのは必ずしも水温の点だけではありません。オニヤンマやスナヤツメは水底が砂であることが重要で、サワガニには流路から連続して斜面林へ行けることが大切です。カワニナには水温や水質が重要であるほか、斜面林から流路に舞い落ちる落ち葉が、餌や隠れ家にもなっています。現在の長田谷津では、サワガニやオニヤンマ、カワニナは数多く見られますが、スナヤツメは少なく、好適な場所が少ないことが推察されます。

●中央水路に多いヨコエビ類

「中央水路」を特に好む水生生物というのは、あまりありません。植物の場合、藻類のアオカワモツクが長田谷津では中央水路だけに生育していますが、水生生物ではそのような例はなく、図3に示したヨコエビ類なども中央水路で多く見られるのは事実ですが、「たまり」でも場所によっては見ることが出来ます。また「たまり」に多いドジョウなどが、逆に中央水路で見られることもあります。

むしろ「中央水路」のもつ意義は、生物の上下流や左右岸の相互移動を実現する経路としての機能かもしれません。飛んだり、湿地を歩いたりできない水生生物にとっては、途切れることなくつながる水路だけが唯一の移動経路なのです。

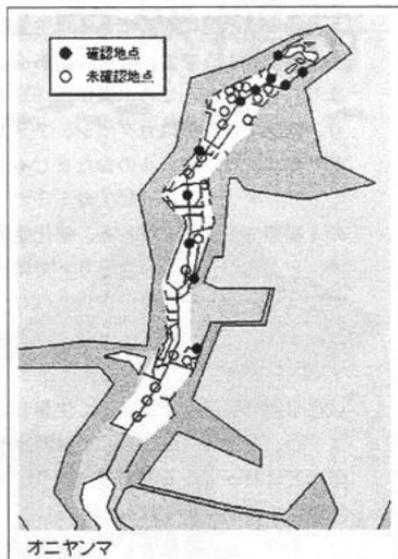


図2 オニヤンマ（やご）の確認地点

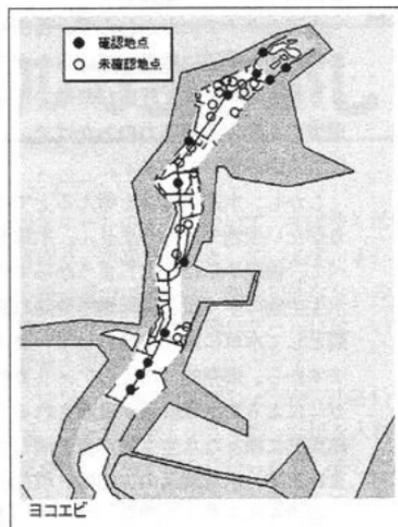


図3 ヨコエビ類の確認地点

●たまりに多い帰化生物

夏場の高水温に対応できる水生生物は多くはないようです。谷奥の、ある「たまり」を調べたところ水温が29.9℃もあり、確認できたのはカダヤシ、アメリカザリガニ、ウシガエルのおたまじゃくし、ミドリガメ（ミシシippアカミミガメ）の4種類でした。いずれも、帰化生物です。ところが、この「たまり」では一部で流入する湧水が水中で流れを作り、そこは水温17.8℃でホトケドジョウを確認することができました。ホトケドジョウは在来種で長田谷津には多く生息していますが、夏場の「たまり」では湧水や木陰などに寄っている例が多いようです。

現在の長田谷津では、むやみに「たまり」を作ると、結果として特定の帰化生物ばかりを増やすことになりそうです。

●全域で多いアメリカザリガニ

水辺のタイプにかかわらず、長田谷津のあらゆる水辺に生息しているのがアメリカザリガニです。旺盛な繁殖力と劣悪環境にも耐える適応力のおかげで、どこにでも住み着いています。

しかし、水辺の環境を考える上ではありがたい生物ではありません。水草を食べて、根絶やしにしてしまうからです。水生生物の多くは、産卵場所や隠れ家、餌として水草に頼って暮らしています。ですから、爆発的に増えたアメリカザリガニによって水草群落が破壊されると、結果的に様々な水生生物が姿を消してしまいます。水草群落の欠如は、現在の長田谷津を巡る最大の課題となっています。

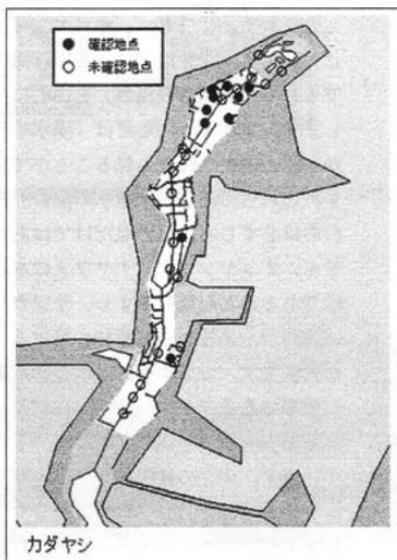


図4 カダヤシの確認地点

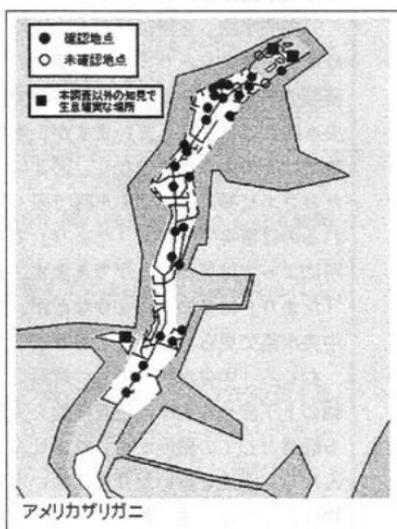


図5 アメリカザリガニの確認地点



街かど自然探訪

おじゃまします!

おおまち・梨街道

大町周辺には梨畑が多く残っていて、8月が近づくと、あちこちの農家で梨を売り始めます。特に国道464号線沿いには大町の梨農家が集まっており、大町梨街道と呼ばれています。

梨の種類は、時期によって変わり、8月始めから幸水、豊水、新高の順番で店先にならびます。秋の実の季節も良いですが、春先、桜が咲いて1週間ほどすると梨の花が咲き始め、畑一面に梨の花が咲いた光景はとてもきれいです。



くすのきのあるバス通りから No.34

プールで虫さがし

季節感のない、夏と秋ですね。「残暑だ一。夏みたい」となってから、我が家のヘチマがやっとう実を結びました。「4年生が育てる植物・オクラとゴーヤ」もいつのまにかヘチマの葉の陰で実っていました。

小学生の娘と、その友達を連れて、市民プールへ泳ぎに行きました。幼児用の浅いプールに面白半分に入って這っていたところ、泳いでいる虫を発見。2人を誘い、虫探しをしました。5mmぐらいで

足をオールのようにかいて、すばやく泳ぎ回り、水底でじっとしています。4、5匹は見つけました。塩素で死なないのでしょかね。他の深いプールには、いませんでした。

マツモムシの仲間でしょうか。小さい頃、コップに水と小さく切った紙を入れ、紙が沈むと虫が取りに行ったりしました。そのとき「風船虫だよ」と教わりましたが、そんな名前もあるのかしら。

(水垣麻理子さん)

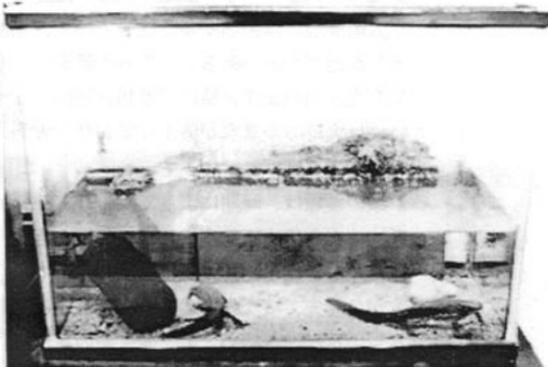
博物館で
こないきもの飼ってます！



アカハライモリ

雄と雌を1匹ずつ飼っています。ガラス面に向かって立ち上がったり（もちろん水中ですが）、こちらの方をじっと見ていたり（何も考えてはなさそうですが）と、結構ひょうきんなしぐさで楽しませてくれます。

たまに生き餌（小魚やおたまじゃくしなど）を入れてやると、急に動きが精悍になって、獲物をすばやく捕まえます。ふだんの、かなりスローな暮らしぶりからは想像できない変わり様です。



○ ○ こんなふうに飼っています ○ ○

※ ※ ※ レイアウト ※ ※ ※

- ・ 陸地 … ほとんど水中にいますが、時折こうら干し(?)をしています。レンガを横倒しにし、その上にコケを敷いてあります。買ったばかりのレンガはあくがあるので、しばらく雨ざらしにしておいたものなどを使っています。段差があっても登れます。
- ・ 濾過器 … スポンジのフィルターがエアポンプに直結した、簡単なものを入れてあります。スポンジの陰が、隠れ場所にもなっていて昼間の定位置です。
- ・ 水 … 週に数度、3分の1ぐらいずつ替えています。汲み置きをしておいた水です。

※ ※ ※ 餌 ※ ※ ※

- ・ 手に入った時は生き餌、それ以外は動物園の鳥の餌用冷凍ワカサギの剥き身をやっています。食べ方は不器用なので、丸呑みしやすいように細長くちぎっています。始めの頃は、ピンセットでつまんで、鼻先で振ったりしましたが、近頃は慣れて顔に近づけるだけで食べています。
週に2回、気が向かないと食べない時もあります。

観察

ノート

◆大町公園より

- ・ニイニゼミが鳴いていました(7/3)。アブラゼミが鳴き出すまでは、ニイニゼミの声もよく聞き取れます。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・オニヤンマが続々と羽化していました(7/10)。雨がちで湿度が高いせいか、お昼近くになっても飛ばずにとまっています。

- ・キイトトンボを見ました(8/3)。谷奥の池に導入したオオフサモの群落に多数いて産卵をしていました。

金子謙一(自然博物館)

- ・ヘイケボタルを見ました(7/10)。このところ気温が低いせいか、まだひかり始めです。

小川 晃(自然博物館)

◆市営霊園周辺より

- ・オオバノトンボソウが咲いていました(7/3)。今年の株は花付きがいいようでした。

- ・ツリガネニンジン、サワヒヨドリ、アキカラマツが咲いていました(8/1)。

◆南大野周辺より

- ・クマゼミの鳴声を聞きました(8/23)。南大野のマンション群と対岸の農家の屋敷林から聞こえてきました。

◆堀之内貝塚周辺より

- ・キツネノカミソリが咲いていました(7/20)。満開になるのは月末でしょう。

以上 金子謙一

- ・フクロウを見ました(7/6)。中央部分のクヌギの木にとまっていた。

◆北国分周辺より

- ・ツミを見ました(7/5)。イヌシデの木に雄雌並んでとまっていた。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

- ・ミンミンゼミの鳴声を聴きました(7/25)。今年初めての鳴声でした。

谷口浩之さん(北国分在住)

◆坂川旧河口周辺より

- ・フジバカマが咲きだしました(8/22)。センニンソウも満開でいよいよ秋の花の季節が始まりました。

- ・サクラタデが咲いていました(8/31)。2年連続の開花です。

以上 金子謙一

◆国府台周辺より

- ・アオバズクを2羽見ました(7/12)。すでにヒナは孵化しているようです。

◆国府台江戸川河口敷周辺より

- ・ホオアカがさえずっていました(8/16)。

以上 根本貴久さん

8月2日によく梅雨が明けましたが、暑さは続かず、冷夏でした。



行事案内



観察会

申し込みが必要な行事です。

〇じっくり観察会… 地形や生物、環境などについて、じっくりと観察してゆきます。

大人向けの内容ですが、親子でもご参加ください。 定員：先着 20 名

	テーマ	日時	場所	受付開始日
じっくり観察会	枝谷の観察	11月9日(日)午前	うしろ谷津	10月18日～
じっくり観察会	幹谷の観察	12月14日(日)午前	大柏川周辺	11月22日～

申し込み方法

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加したい行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

*集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日にち	場所
色づく雑木林	11月16日(日) 午前10時～11時30分	柏井雑木林
野鳥のにぎわい	12月21日(日) 午前10時～11時30分	動植物園券売所前集合

親子で行徳・毎月の江戸川放水路

お申し込みの必要はありません(雨天中止)

江戸川放水路に毎月行って、季節の生き物を観察します。

*日時 10月25日㊤、11月22日㊤

*集合 妙典公園 午前10時集合 約1時間半～2時間

*集合場所、持ち物など詳しくは博物館に直接おたずねください。

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。

- ・日時 10月26日㊤、11月23日㊤、(12月はお休み) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・雨や大風など、天候不良の場合は中止です。
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もありますので、作業内容や身支度などについて、ご面倒でも、まずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをしていただきませんか。

- ・日時 11月2日㊤、12月7日㊤
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・雨や大風など、天候不良の場合は中止です。
- ・はじめて参加される方は
…まずは博物館にお問い合わせください。

市立市川自然博物館だより
第15巻 第4号 (通巻第88号)
発行日/平成15年10月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>